

平成27年度 京都市立桃陽総合支援学校 経営方針

学校教育目標

新しい学びを創造し、発信する学校をめざして！！

「からだ」「こころ」「いのち」を大切にし、規則正しい生活習慣を身につけ、
将来の自分の姿を見すえながら、前向きに生きる子どもの姿を実現する。

【めざす子ども像】「桃陽」で学ぶ強みを生かし、時代と自らの未来を切り拓く子ども

- | | |
|----------------------------------|-----------------------------------|
| ○「 <u>願い</u> 」を大切にする子
キャリア | ○「 <u>からだ</u> 」を大切にする子
健康 |
| ○ <u>すすんで</u> 学ぶ子
意欲・学力 | ○「 <u>思いやり</u> 」を感じ合う子
社会性・共同性 |
| ○ <u>I C T</u> を活用する子
挑戦・規範意識 | |

【めざす学校像】

病気の時だからこそ学ぶ 新たな学び 笑顔の学びがある学校
地域に発信し、地域ぐるみの教育の核となる学校

《病気と向き合う子どもが安心して学べる学校》

- ☆会いたい先生（教職員）のいる学校
- ☆行きたい場所（教室）がある学校
- ☆受けたい授業がある学校

《教職員が力を十分に発揮できる やりがいのある学校》

- ☆教職員が健康で活気にあふれている学校
- ☆教職員自身が「学ぶ喜び」「教える楽しさ」を実感できる学校
- ☆病弱教育に対する情熱を持ち、教職員が一体となって教育活動を推進する学校

《地域と連携し、地域に発信し続ける学校》

- ☆前籍校へのスムーズな移行に向けた支援ネットワークの構築が図れる学校
- ☆学校運営協議会を中核に、家庭・地域に働きかけ、地域とともに子どもを育てる学校
- ☆全病連京都大会を軸に、地域や全国に発信し続ける学校

【めざす教職員像】

教育者として責任を自覚し、確かなビジョンと力量をもつ教職員

平成27年度 学校経営方針

<病気のときだからこそ 行すべき教育の追究>

～教育課程の見直しと、授業改善～

指導の重点

子どもの主体性と社会性の育成につながる「言語活動」と「協働活動」

- 1 多様な言語環境を整え、表現する意欲を高める「言語活動」
- 2 自己効力感と自律性・責任感の育成を目指した「協働活動」

児童生徒の基礎目標

- | | |
|----------------------------|-------|
| 「病状を理解し、自己の健康管理をしながら登校する子」 | －勉強－ |
| 「周りの人と挨拶を交わせる子」 | －挨拶－ |
| 「T P Oに合わせた言葉遣いや服装をする子」 | －服装－ |
| 「様々な人とつながり、学ぼうとする子」 | －ICT－ |

学校経営の重点方針

- (1) 病気のときだからこそつけるべき「学力」を育む教育の推進
- (2) 子どもの命を守りきり、「生きる」意味を伝える教育の充実
- (3) 学ぶ意欲にあふれ規律ある学校風土の創造
- (4) 組織力が発揮できる学校体制づくり
- (5) I C Tを活用した授業改善・教育活動の展開
- (6) センター機能の充実
- (7) 開かれた学校づくり
- (8) 大胆かつ効果的、効率的な予算編成